

沖縄電友会報

令和7年1月

第68号



目次

新年のご挨拶 仲本 榮章……………2

古江 健太郎……………3

電友会本部だより

○第82回理事会模様……………4

○ポランテア活動賞表彰式……………4

地方本部だより

○設立50周年記念事業

バスツアー・シンポジウム開催……………5

○相続セミナー開催……………6

○退職者の皆様との交流会開催……………6

○活躍する会員……………7

がんじゅう広場

○今年の年男・年女……………8

NTTだより

○災害復旧活動のマスコミ向け説明会を開催……………11

○環境クリーン活動を実施……………11

○「マテスボ」の実証実験を開始……………12

○NTT西日本杯高校ソフトテニス大会……………13

ふれあいソフトテニス教室開催……………14

○琉球朝日放送で防災取り組みを紹介……………15

○フットボール活動 贈呈式を開催……………16

○南城市で自動運転実証。実証調査事業実施……………17

○テレビ番組でフレックシア全戸加入プランPR……………18

○MABU太鼓が勇壮な演舞を披露……………19

○石垣市で自動運転実証。実証調査事業実施……………20

○退職者の皆様との交流会を開催……………21

「JAL ONE」とは？

電気通信設備のテクニカルサポート技術者募集……………22

文芸コーナー

○紀行・随想……………24

○短歌・俳句・川柳……………31

「與那國島もう一つの郷土史」について……………32

お知らせ・電友会サークル活動のご紹介……………33

編集後記……………36

謹賀新年……………37

題字 新垣 昌也氏



新年のご挨拶

沖縄電電同友会 会長 仲本 榮章

明けましておめでとうござい
す

・だんじよかれよしの歌声の響
見送る笑顔 目にど残る
・あらたまのけふや御前風にの
せて 弾きゆる三線 音のし
ほらしや

正月といえばおせち料理なんで
しょうが、沖縄ではだいぶ異なり
ますね。最近ではスーパ―に積み
重ねられたオードブルが並ぶ。餅
を焼いてのお雑煮は子供の頃から
ありましたが、オードブルはいっ
頃からでしょうか。年中行事には
仏壇に重箱が並び、餅が添えられ
る。重箱には御三味(うさんみ)
といわれる「天・地・海」の食材
がぎっしり整然と詰まっている。
しかしながら御三味は地域によっ
て異なっています。久米(クニン
ダ)では鳥や豚肉、魚を茹でたり
蒸したりしていて、それにニンニ
ク風味の独特なドレッシングをか
けます。天は鳥、地は豚、海は魚、

料理の中に宇宙をはらみ、カラダ
のエネルギーとなる。そして若水
を汲み一年の大賀を祈る。めでた
い席には御前風(グジンフウ)で
しょうが、次第にテンポが上がる
「だんじゆかりゆし」の琉歌もよ
く似合います。

冒頭の琉歌は最初が上皇明仁
作、次が我々の先輩である玉城範
夫の作品、作者名を伏せて並列に
すると、地位も権威も失せて、気
持ちは個性として残ります。上皇
の琉歌は三〇〇首に及ぶと伝えら
れています。琉歌は八・八・八・
六(八)で構成され、短歌の五・
七・五・七・七の三十一音とは決
を分ちます。

一九七五年七月に、陛下が沖縄
の愛楽園を慰問した時の帰り際
に、入所者の皆様が斉唱してくれ
たのを陛下は琉歌に詠んだ。この
歌に曲を付けたのが美智子皇后
で、旋律に伴奏を付けたのが山本
直純、その際山本は二番の歌詞を
陛下に求めた。それが次の琉歌。

だんじよかれよしの歌やわき
上がったん ゆうな咲きゆる島
肝に残て

昨年は電電同友会沖縄の設立
五十周年。「だんじゆかりゆし」
の民謡のように実行委員会は走っ
た。記念行事としての第一弾に人
間国宝の西江喜春さんのミニコン
サートの実施。華やかに琴・笛も
従え、八十五歳のトウシビーを迎
えたばかりとは思えない、高音の
美声が会場を包んだ。圧巻の演奏
でした。

第二弾としては能登半島地震
チャリティーゴルフコンペ。一つ
の県でこれだけの企業等の賛同者
を集めてのゴルフコンペは凄いと
の各地方本部から称賛の声が寄せ
られるとともに、沖縄タイムスで
も感謝の記事が掲載されました。
第三弾は古宇利島までのバスツ
アー。三線サークルがバスに乗り
込み生演奏つき、合唱つきアグー
料理つきの愉快なツアーで、タ
ワーから雨の垣間に見る絶景の海
景色にリフレッシュした一日でし
た。

第四弾は電友会の会員で沖縄大
学の特別研究員の島田勝也の司会

で進められた「沖縄情報通信の歴
史と未来」と題して、私と沖縄 I
T イノベーション戦略センターの
稲垣理事長との対談。You Tube
be で放映されると共に、BS 未
来で数回に渡って放映されまし
た。

そして中央本部主催のボラン
ティア表彰は照屋峰一さん。授賞
式は東京大手町「KKR ホテル東
京」で行われました。5 円玉の穴
をも通すというライフル射撃の名
手。国体二十五回の出場というの
も驚きでしたが、それに加えて、
九州ライフル射撃の連合会理事長
の要職を担い、地元自治会の役員、
老人会長も努めるなど、堂々とし
た受賞でした。

二番まで出来上がった陛下の短
歌は、陛下在位三十年記念式典
で、沖縄出身の人気歌手三浦大知
が「歌声の響」として歌った。

短歌「歌声の響」のきっかけと
なった沖縄民謡「だんじよかれ
よし」、新しき年に、「縁起の良
い船に、縁起の良いことを乗せ
て」、我々電電同友会沖縄の活動
もかくありたいと願います。さー
さーかりゆし。



新年のご挨拶

NTT西日本沖縄支店 支店長 古 江 健太郎

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

新たな年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

二〇二四年を振り返りますと、沖縄県では、国内外から多くの観光客が訪れるなど、本格的な賑わいが戻ってきたことを実感する年となりました。

一方、全国的には、能登半島地震や台風十号により甚大な被害を受けるなど、自然災害の脅威にも直面しました。

また、二十年ぶりの新紙幣の発行や衆議院の解散総選挙など、社会・経済・政治の各分野で様々な動きがあった年だったと感じています。

世界情勢も含め、世の中はまさに激動の時代ですが、沖縄支店では、「これまでも これから 沖縄の皆さまとともに歩んで

いく」という変わらぬ思いのもと、諸先輩方から受け継いできた『つなぐ使命』を果たすべく安定した通信サービスの提供に努めるとともに、南城市や石垣市において公道でのEVバスによる自動運転の実証事業を行うなど、今後の沖縄県の地域活性化に資する新たな取り組みにも積極的にチャレンジしてまいりました。

この他、二年ぶりに開催された一万人のエイサー踊り隊など、様々な地域イベントにも積極的に参画してまいりました。

おかげさまでとても実りの多い一年にすることができたと思っております。

また、十一月二十一日には、「退職者の皆さまとの交流会」を開催し、電友会の皆さまをはじめ、退職者の皆さまとの親睦を深められたことを大変嬉しく思っています。

昨年も電友会の皆さまから多大

なご支援をいただいたおかげで、沖縄支店は着実にステップアップできたと思っています。『うない』メンバーが中心となつて積極的に取り組んでいる「フードドライブ活動」では、食料品等の回収ボックスの設置にご協力いただくとともに、多くの食料品等をご提供いただきました。皆さまのおかげで、過去最多となる約一七二五kgの食料品等を寄贈することができました。贈呈式の模様は新聞でも報じられ、社外プレゼンスの向上にも繋がりました。皆さまからの温かいご支援に御礼申し上げます。

この他にも、瀬長島での清掃活動等の社会貢献活動をはじめ、設備一〇番や安全パトロール等、皆さまには、様々な場面でお力添えをいただきました。心より御礼申し上げます。

情報通信市場では、NTT法の見直しに関する議論が進展する等、時代の変遷を感じさせる動きもございますが、いつの時代においても、通信で人と人をつなぐことの重要性やお互いに助け合い、支え合う「結」の精神の大切さは変わるものではありません。

私たち沖縄支店としては、二〇二五年も、「これまでも これから 沖縄の皆さまとともに歩んでいく」という思いのもと、ICTやAI等の最新技術の社会実装を推進し、お客様一人ひとりの暮らしを豊かにするとともに、沖縄県の社会課題の解決や自治体・顧客企業の発展にも貢献していくことで、沖縄の皆さまとともに成長していける一年にしたいと思えます。

そのためには、電友会の皆さまのご理解とご協力が欠かせません。皆さまがこれまで築き上げてこられたものをしっかりと受け継ぎながら、沖縄県を更に元気にするために、様々なことに積極的にチャレンジしていきたいと考えていますので、引き続きのご指導・ご鞭撻と事業活動へのお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆さまの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

電友会本部だより

令和六年十一月十三日（水）KKRホテル東京で第八十五回理事会が開催され、仲本理事が出席しました。



議事

1. 高部電友会会長あいさつ
2. 第三十四回ボランティア活動賞、第十回ボランティア活動功労賞の表彰について（審議）
3. 自然災害に伴う被災会員への見舞金の支出について（報告）

第三十四回

「ボランティア活動賞」表彰式開催

令和六年度の電友会本部「ボランティア活動賞」表彰式が十一月十三日KKRホテル東京で開催されました。沖縄地方本部からは照屋峰一さんが「ライフル射撃競技の普及・育成と自治会活動の活性化に取り組む」で受賞されました。照屋さんは選手としての傍ら永年にわたり高校生をはじめ若手選手を育成し、現在もライフル射撃協会の役員として活動され、また、自治会活動においても、老人会会長を務めるなど永年にわたり地域振興に取り組んだことが評価されました。



バスツアー（設立50記念事業第3弾）

暑さも和らいだ9月20日に古宇利島へバスツアーを行いました。参加者は27名で大型バスを貸し切り、修学旅行（仲本校長先生）気分で半日があっという間に過ぎました。

車内では、クイズ大会や三線サークル生演奏による琉球民謡合唱など実行委員会の皆さんの楽しい企画で盛り上がりしました。

目的地の古宇利オーシャンタワーでは、シェルミュージアムを見学、昼食はアグー鍋を美味しく頂き、許田道の駅に立ち寄り無事帰路につきました。

また、参加者からは、次回も是非参加したいとの声が多数あり、今後も継続していきたいと思いますので、次回は多数の皆様の参加お待ちしております。

「初嵐 名残りの海に 驟雨かな」校長作

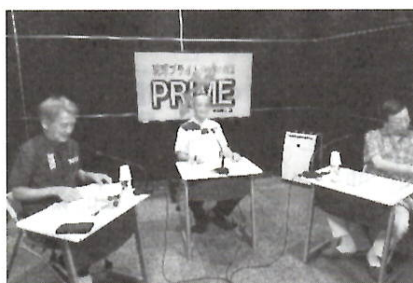


シンポジウム開催（設立50周年事業第4弾）

令和6年9月28日スタジオキタナカ（イオン沖縄ライカム内）にて、「沖縄の情報通信の歴史と未来」をテーマに電友会会員（沖縄大学地域研究所特別研究員）の島田勝也氏の進行で、仲本榮章沖縄電友会会長と稲垣純一沖縄ITイノベーション戦略センター理事長によるシンポジウムが開催されました。当日は、YouTubeで生配信され、BS未来で数回にわたり放映されました。

なお、DVDで視聴したい方は、貸出していますので事務局迄お越しください。

【YouTube：琉球プライムで検索】<https://youtu.be/9YRwKJh6UFw?si=XgHYBdVKOSEfYKug>



相続セミナー開催

令和六年十一月二十七日（水）、OBサロンにおいて「相続セミナー」を開催しました。

講師は、S M B C日興証券那覇支店上級相続診断士の山田昌輝様をお迎えし、「相続における課題と効果的な相続対策」と題し約一時間説明して頂きました。

参加者は七名でしたが、皆さん熱心に耳を傾け、活発な質疑応答がありました。

我々にとって身近な問題であり、高額な資産が無くてもトラブルになる割合が多いこと、相続税、遺産分割対策、生前贈与など説明して頂きました。皆様も「相続」が「争族」にならないよう対策してみたいかがでしょうか。

相続対策について、相談等がありましたら気軽に声を掛けてほしいとのことです。



NTT西日本沖縄支店 退職者交流会開催



NTT西日本沖縄支店 退職者の皆様との交



十一月二十一日（水）午後一時からホテル沖縄那覇で、NTT西日本沖縄支店主催で「退職者の皆様との交流会」が開催されました。OB・OG、現役社員を含め一五〇名余りの参加で三線サークル十二名による琉球古典音楽三曲斉唱で幕開けとなり、古江支店長、比嘉分会長の挨拶に続き、金城退職者の会会長の乾杯の音頭で交流会がはじまりました。

交流会では、NTT西日本沖縄支店長から電気通信事業功労者として、村吉政常さん、伊藤彰さん、富川昇さん、地域ボランティア功労者として松田竹徳さんが感謝状と記念品を贈呈されました。四名の皆様誠におめでとうございました。

現役の皆さんの力強いエイサーで賑わい、最後はカチャーシー、仲本会長の閉会挨拶で大盛況の中、終了しました。我々退職者のために交流会を開催して頂き感謝申し上げます。

那覇局営業OB会開催

令和六年十月二十六日
(土)、那覇局3F OBサロンにて、那覇局営業OB会を開催しました。

四十一名が参加し、名護市からも駆けつけ昔話に花が咲きました。楽しい一時、甦った青春の一コマでした。



活躍する会員

二〇二四年度沖縄県功労者表彰

照屋 恒(平成十二年三月退職)

令和六年十一月三日、

那覇市のパシフィックホテル沖縄で開催された二〇二四年度沖縄県功労者表彰式において、沖縄電友会会員の照屋恒さんが、県功労者として表彰されました。

【受賞理由】平和・人権推進に貢献(対馬丸記念館語り部)

照屋恒さんは、学童疎開船対馬丸の生存者として、複雑な思いを抱えながら語り部となることを決意し、対馬丸や戦争に対する自らの思いや体験を次代を担う世代へ伝える活動を行うなど、平和教育の推進に貢献したとして、玉城デニー知事から表彰状が贈られました。

受賞、誠にありがとうございました。



前列右から二人目が照屋恒氏

2024年(令和6年)11月19日 火曜日 沖縄タイムス

母校北山高校に書贈る

沖展会員の大城碧鳳さん



親しまれている校歌作品に

【今週】龍賞沖縄書道会の副会長で沖展会員の大城碧鳳(雅号・碧鳳)さんが16日、浦添市にある母校の北山高校へ、母校の校歌をテーマにした書道作品を贈りました。大城さんは、卒業後、母校の校歌をテーマにした書道作品を、母校の校長室に贈りました。大城さんは、卒業後、母校の校歌をテーマにした書道作品を、母校の校長室に贈りました。大城さんは、卒業後、母校の校歌をテーマにした書道作品を、母校の校長室に贈りました。



パレットくもじで初個展 「五十五年の歩み」

大城 稔

(平成17年3月退職)

2024年(令和6年)10月17日 木曜日 沖縄タイムス

書道歴55年の歩み展示 大城さんパレットで初個展



来場者に作品を解説する大城さん(右)=16日、那覇市民ギャラリー

龍賞沖縄書道会の副会長で沖展会員の大城碧鳳(雅号・碧鳳)さんの書道展「五十五年の歩み」が20日、那覇市民ギャラリーで開かれていた。書道歴55年になる大城さんの初個展で、過去作と新作を含めた69点が並び、入場無料。書いた年代によって作風が異なり、1986年に沖縄展奨励賞を受賞した作品は、(社会部・知念豊)

がんじゅう広場

今年の
年男・年女



思い出はまだ現在進行形

比 嘉 康 春

(平成十一年三月退職)



二〇二五年七十三歳のトゥシビーを迎えます。年齢のことを普段は意識することはありませんが、最近、同級生達との飲み会などでの話題は、ほとんどが健康の話と孫の話が持ちきりになり、そのときに互いの年齢を意識し合います。若い頃、父親や年配の方が年を取っても気持ちにはまだ十代、二十代と変わらないという会話をよくしていたことを思いだしながら、私達も



とうとうそのような年齢になったのかと過去を振り返る会話に終始してしまうことが多くなりました。とはいえ、まだ老け込むには早い、といいますが日々芸能活動や些事に追われているので意識して鏡にしみじみと向き合わないようにしているというのが正直なところです。

昭和四十七年十二月一日十九歳でN T Tに入社、二十六年間在職。平成十一年三月三十一日に退職し、翌日四月一日四十四歳の時に県立芸術大学に転職しました。県立芸術大学では二十一年間、琉球古典音楽の指導に携わってきました。その間には、学長という夢を見ていたような経験までさせてもらいました。

いま振り返ってみますと怖いもの知らずにもほどがあるといろんなことが思い返されますが、N T T時代、県立芸術大学でのさまざま出来事、経験は私のかでは、まだ現在進行形のように思えるほどに鮮明で輝いています。いまはまだ振り返りの時期には早いと、気持ちはまだ十代、二十代のつもりでいます。

「トゥシビー」を
迎えるにあたり

渡嘉敷 真 克

(令和三年三月退職)



皆さんお元気でしょうか？

最後のN T T関連会社（N T Tテレコン株）を退職してから早三年が経過し、今年はめでたく古希を迎えることができました。

高校卒業後十八歳でN T Tに入社してから六十八歳まで五十年もお世話になり、本当に多くの経験をさせてもらいました。出張・研修や報奨旅行等では全国多くの地に行かせてもらい、さらには青年海外協力隊としてタンザニアまで行くことができました。

また、多くの先輩や友人からのご指導ご鞭撻は、私の人生の道しるべとなり今日を迎えるこ

とができましたこと本当に感謝に堪えません。

五十年、人生の半分以上をN T Tという大きな輪の中で楽しく有意義な時間を過ごすことができたことを誇りに思う昨今です。

さて近況ですが、退職後直ぐにサトウキビや野菜づくりの農業とスマホ講師の二刀流で悠々自適な優雅な生活を夢見ていましたが、農業はあまりの過酷さと低収入で挫折。スマホはボランティア要素が強くこれもお手上げ。

収入を上げようと警備会社でも働きましたが、そこは真つ黒な3 K職場、半年もたずにノックアウトされました。

やつと昨年、義兄の経営する小さな介護施設で働き始め、毎日老々介護を実践しています。小さな施設なので送迎・入浴・レクなど何でもやっています。

初任者研修を受けてやつと一人であれやこれやできるようになりましたが、体力的には、厳しい時もあります。

しかし毎日、後期高齢者の皆さんと方言でおしゃべりしたり

して楽しんでいきます。

いま思えば過去（NTT時代）があつて今日があるので、過去はまぼろしですね。

やはり、今現在を生きるのが精いっぱいです。子孫が増えジジババを楽しんでいますか、まだまだ先は長いと思われま

す。

「トウシビー」を 迎えるにあたり



比 嘉 定 二

（平成三十年三月退職）



会員の皆様こんにちは、お蔭様で無事にトウシビーを迎えることができました。こうして迎えられたのも亡き父・母のおかげです。私を生んでくれたことに感謝しています。

始めに私の近況報告ですが、私には妻と子供（三人）、孫（九

人）がいます。孫は大学生（一人）、高校生（三人）、中学生（一人）、小学生（二人）、〇歳児（二人）です。令和六年六月二十四日に双子の孫の赤ちゃんが生まれました。長女夫婦にとっては初めての子供で、私達は大変待ち望んでいたので大変嬉しいです。男の子と女の子の二卵性双生児でとても可愛いです。いまは毎日娘の家に通ってミルクを飲ませたり抱っこをしてあやしたりしています。ちなみに食事は私の妻が午前中に毎日二、三時間かけて食事を作って娘の家にもつていっています。娘も四十五歳になって初めての子供なので最高にうれしかったと思います。娘の旦那も十二月までは育休をとって毎日子育てに奮闘しています。令和の育児に戸惑いながらも老夫婦共に孫育てに頑張っている毎日です。

双子の赤ちゃんは二倍の動力がかかりますので、今後少しでも娘夫婦の手助けをしていきたいと思っています。

孫のことばかりを書きました。自分の趣味はボウリング、卓球、三線、横笛と野菜作りです。

“ハッピーモア”という所に野菜等を出荷しています。

これからもお互いに健康に気を付けて頑張っていきたいと思います。

「トウシビー」を 迎えるにあたり



宮 良 周 作

（平成三十年三月退職）

一九七二年二月に八重山電報電話局業務課に配属されました。八重山局をはじめとしてたくさんの職場を経験しました。

四十六年二月の月日がたち無事卒業することが出来ました。この間、わたしを人として成長させてくれた上司、先輩、同僚の皆様深く感謝しています。

卒業して七年になります。自身が「トウシビー」を迎えると意識したことはありませんが、体力が衰えてきたことはよく理解できます。昨年（令和五年）足を骨折して入院、手術をし、車椅子、松葉杖生活をする事になり、（六ヶ月でゴルフが可能になりました）、健康的な日

常生活がいかに大切で自由であるかがよく分かりました。

快適な生活を送るため地域との関りも楽しんでいます。週一回公民館でカラオケサークルを楽しみ、会員相互の親睦を行っています。適度な緊張と脳の活性化でボケ防止に良いようです。継続努力し明るい老後を楽しんでいきたいと思ひます。

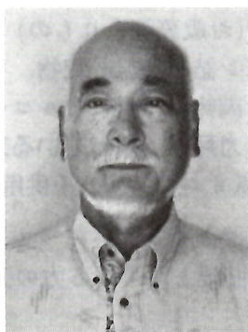
最後に会員の皆様のご健康を祈念いたします。

七十三トウシビーを 迎えて頑張っていきます



照 屋 峰 一

（平成三十年三月退職）



あけましておめでとうござい

ます
昨年は電友会本部より「ボランティア活動賞」いただきあり

がとうございました。良い思い出となり感謝申し上げます。

今年は、巳年。七十三トウシ
ビー祝い記念として、夫婦二人
で新年の「宮古島・八重山・台
湾クルージング」を満喫し良き
一年のスタートを切ることが出
来ました。

退職から六年、悠々自適を思
い描いていたが、現実には日々、
孫の送迎や食事の準備（妻が仕
事しているため私が主夫）、趣
味のライフル（選手は目の衰え
により引退、現在は九州統括の
役員として奮闘中）や地域自治
会及び老人会の取り組み対応等
でんてこ舞の毎日ではある。還
暦から思っているリウマチも、
なんとか克服でき寛解状態とな
り、健康のありがたさを実感し
ている。これからも健康に留意
して対応できる活動は精一杯頑
張っていききたい。

また、退職しても見守ってい
る組織があるということは、大
きな励みでありつながり絆を感
じます。電友会の一員としてと
もに歩み協力していくことを誓
い電友会の益々のご発展を祈念
申し上げます。

石垣島よりAloha ～

勢理客マチ子

（平成30年6月末退職）

乳がん検診の重要性訴え

フラでピンクリボン運動

10月の「ピンクリボン月間」にちなんでフラダンスを
のミニショーが29日夕、エグレナモール内石垣市
公設市場前で行われ、フラを通して乳がん検診の重要
性を伝え、約1時間で13個目を披露、ダンスサークルのHana
組んでいるフラサークル「ハナペ（ハナペ）」も出演した。
「ハナペ」は、乳がん検診の重要性を訴えるフラダンスを
主催した。マウイ島への募金活動も行った。マウイ島への募金活動も行った。
勢理客さんは冒頭、「皆さん、乳がん検診は、乳がん検診の重要性を訴えるフラダンスを主催した。マウイ島への募金活動も行った。」と語りかけ、約1時間で13個目を披露、ダンスサークルのHana組んでいるフラサークル「ハナペ（ハナペ）」も出演した。



かわいらしいフラダンスを披露する子どもたち。観光客ら多くの人が楽しんだ。29日夕、公設市場前

去った十月二十日石垣市公設市場前で「ピンクリボン月間」第二回ミニショーを無事終えることができました。

多くの方に楽しんで頂きながらフラを通して乳がん検診の重要性を呼びかけることができたと思います。観覧者の方も多く集まって下さり、ケイキちゃん達の笑顔いっぱいフラにたくさんのお褒めの言葉を頂きました。さらに三線とコラボ（童神）では感動のあまり涙を流すご夫妻もあり「ありがとう」の言葉を頂き心温まる瞬間でした。

フラを通して、少しでも生まれ島に貢献できればと思っています。



【NTT 西日本 CSR 活動方針の一環:SDGs に貢献】

食料等の提供にご協力下さい (第18回うないフードバンク活動)

1. 食品提供箱設置期間

2025年1月6日(月)～1月20日(月)

2. 設置場所【各NTTビル】

城間・楚辺・与儀・勢理客・南風原・名護

電友会事務所(与儀3F)・テルウェル(浦添)

3. 提供して欲しい物 (お歳暮等余りもの)

【食品】お米、缶詰、ビン詰め、乾麺、乾物、

カップラーメン、油・調味料、飲料(アルコール除く)

※食品は賞味期限1カ月以上残っている未開封のもの

【その他】生理用品、紙オムツ(大人・子供用)

4. 寄贈先 フードバンクセカンドハーベスト沖縄から 福祉施設団体へ渡り必要としている方の元へ届けられます。

※提供される場合は「電友会(氏名)」を記載願います

NTTだより

災害復旧活動のマスコミ 向け説明会を石垣島・宮 古島で開催しました！

沖縄支店では、四月二十二日（月）にFT八重山センタで、五月二十一日（火）にFT宮古センタで、地元のマスコミに対して、NTT西日本グループの災害復旧活動に関する説明会を開催しました。

この取り組みは、梅雨や台風シーズンを見据え、通信インフラの復旧活動に関するマスコミ各社の理解度を深めつつ、当社の企業イメージ（安心・安全な通信の確保など）の向上などを図るために実施したものです。昨年十一月に沖縄本島でも説明会を開催しましたが、宮古・八重山エリアで活動するマスコミの皆様が沖縄本島まで来るのが難しいという課題がありました。そのため、より多くのマスコミに災害復旧活動の取り組みを知っていただけるよう、宮古・

八重山エリアでも説明会を開催することになりました。説明会は二部構成で行い、第一部では、NTTフイールドテ



宮古センタで説明会に参加する記者の皆さんからの質疑応答の様子



記者に光ケーブルの融着作業の説明（八重山センタ）

クノ沖縄設備部 エリアマネジメント部門の木下部門長より、NTT西日本の通信設備の構成や令和五年台風六号による被災からの復旧活動を紹介。宮古・八重山エリアに対して、災害が発生する前からバケット車を先行配置していることや海底ケーブルのループ構成など、災害時に通信を確保するための取り組みなどを説明しました。

第二部では、八重山センタ、宮古センタの社員の皆さんが、光ケーブルの融着作業やバケット車での保守作業を実演したり、展示した海底ケーブルなどを紹介したりしました。また、参加した記者にも光ケーブルの融着作業を体験していただきました。体験した記者からは、「風雨が強い中でこの作業は大変ですね。大変さがよく分かりました」と復旧活動への理解が得られました。

本説明会は石垣島・宮古島の地元紙（計四紙）で大々的に報じられ、出水期を前に社外PRにもつながりました。

NTT西日本 沖縄支店では、これからも沖縄県の皆様に、正

確かつ迅速に通信設備の被災・復旧状況をお伝えできるように、メディアへの情報発信に取り組んでいきます。

「環境クリーン活動in瀬長島」を実施！NTT西日本グループ全国一斉清掃活動

沖縄支店では、NTT西日本グループの全国一斉清掃活動の一環として、六月十五日（土）に瀬長島（豊見城市）で清掃活動を行いました。

本活動には、NTTグループの社員や家族、退職者など、計一五二人が参加し、ビーチや周辺道路などで清掃を実施。瀬長島は、那覇空港からまっすぐ南に一・五kmほどの位置にあり、多くの観光客が訪れる人気の観光スポットです。島内には商業施設やホテルがあり、離着陸する飛行機を間近で見られるスポットとしても知られています。また、瀬長島の入り口付近には野球場もあり、地域のコミュニティの場にもなっています。

清掃活動の開会式ではまず、



清掃活動後に参加者全員で記念撮影



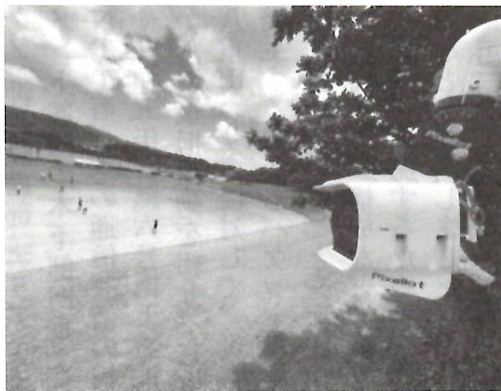
清掃活動終了後にごみを集約する社員たち

古江支店長が本活動の趣旨や参加者へのお礼を述べ、清掃活動がスタート。当日は天候が不安定だったため、ごみが最も集積されていた瀬長島の入り口付近のビーチを重点的に清掃し、約一時間の活動で計一三〇袋（八〇が一〇〇袋、三十〇が三十袋）のごみを収集しました。

参加した社員は「観光スポットである瀬長島のビーチをより一層きれいにできて、とてもうれしいです」や「これからも社会貢献活動に取り組んでいきたいです!」とコメント。清掃活動を通して、より一層、NTTグループの一体感が高まりました。

閉会式では、廣瀬事業推進室長が清掃活動を終えた皆さまへねぎらいのあいさつをし、清掃活動が終了しました。

また、清掃活動終了後には、参加した子どもたちを対象に、お菓子の詰め放題も実施。毎年恒例のイベントであり、子どもたちがたくさんのお菓子を詰めようと頑張る姿に周囲も自然と笑みがこぼれました。



サッカーパークあかんまに設置したAIカメラ

石垣市でスポーツDXを通じたまちづくり「マチスポ」の実証実験を開始しました!

NTT西日本 沖縄支店では、石垣市・NTT Sports tと連携して、島内の主要なスポーツ施設にスポーツ大会のライブ配信に必要なAIカメラなどを設置し、七月二十日（土）より、スポーツDXを通じたまちづくり「マチスポ」の実証実験を開始しました。

NTT西日本グループ沖縄エリアでは、これからも地域に根差した社会貢献活動を推進していきます。参加者の皆さま、ご協力ありがとうございました!

石垣市では、二〇二〇年三月に石垣市スポーツ推進計画を策定し、スポーツを起点としたまちづくりを推進してきましたが、離島という地域特性からスポーツイベントへの集客が難しいなどの課題を抱えていました。

そこで沖縄支店では、石垣市の課題を解決するために、五月二十三日（木）に石垣市・NTT Sports tと連携協定を締結。協定締結を踏まえ、AIカメラなどを活用したスポーツ大会の発信力の強化や生涯スポーツの振興による地域コミュニ



ハフポストのインタビューに応じるBS 八重山営業所の大田所長

ニティの活性化をめざす実証実験を行うこととなりました。

今回、A Iカメラを設置したのは、石垣市中央運動公園総合体育館（メインアリーナ、サブアリーナ）、ロートスタジアム石垣、サッカーパークあかんまの三カ所です。

実証実験を開始した七月二十日（土）、総合体育館で石垣第二中学校吹奏楽マーチングバンド部が早速、A Iカメラを活用して練習しました。全国大会二連覇中の同部を指導する赤嶺コーチからは、「これまで、沖縄本島から石垣島まで、毎回来島して生徒を指導する大変さがあった。A Iカメラを活用すれば、音声付きの映像で遠隔地でも練習の振り返りができるので、指導の幅が広がる。強豪校では、すでに練習に動画を取り入れているので、今回の取り組みは非常にありがたい」と感謝の言葉をいただきました。部員からは、「マーチングでは、隊列のバランスが重要。A Iカメラを使えば、全体を見渡せるので、練習に役立つ」とA Iカメラの活用メリットをお話しいた

できました。

サッカーパークあかんまでは、Y F A 第一回石垣市長杯 U-18 女子サッカー大会の試合を配信。八重山高校女子サッカー部の加原監督は、「観光シーズンになると、生徒たちの宿泊分しかホテルを確保できず、保護者が現地観戦できないこともある。試合の配信は保護者も喜んでいる」と生徒のスキル向上以外のメリットを挙げていました。

また、沖縄支店では、実証実験の開始に合わせて、マスコミ向けの取材会などを開催。地元新聞やテレビで大きく報じられました。さらに、アメリカ発の W E B メディアである H U F F P O S T （以下、ハフポスト）には、本件の広告動画を撮影していただくことに。その動画には、石垣市の中山市長や八重山営業所の大田所長に出演していただき、今後のマチスポの全国展開に資する P R 活動をするこ

とができました（ハフポストの動画は九月に公開予定です）。

沖縄支店では、これからも沖縄の皆さまとともに、最新の I

C T を活用して、社会課題の解決に取り組んでいきます。

■関連 H P

・石垣市のスポーツ大会などの配信は、アプリ「S p o l i v e」、または W E B 版より、マチスポ石垣市ポータルにアクセスいただくことでご覧いただけます。ぜひ、ご体感ください！
・ハフポスト動画： <https://t.io/0tAC6Izf>

「NTT西日本杯全沖縄高等学校ソフトテニス大会」「ふれあいソフトテニス教室」を開催！

N T T 西日本 沖縄支店では、「第三十六回 N T T 西日本杯全沖縄高等学校ソフトテニス大会」を八月二十一日（団体戦）、二十二日（個人戦）に開催しました。また、大会翌日の二十三日には、昨年に引き続き、N T T 西日本 ソフトテニス部の選手による「ふれあいソフトテニス教室」（以下、ふれあい教室）も開催しました。

■第三十六回 N T T 西日本杯全沖縄高等学校ソフトテニス大会



開会式 選手宣誓

開会式では、主催者を代表して沖縄支店の古江支店長が「今年も無事に開催できたことをうれしく思います。今年も皆さんの熱い戦いが繰り広げられることを期待しています。本大会は今年で三十六回目となり、選手皆さんのにとっては、高校総体が終わり新チームになって最初の大会です。本大会を絶好の機会と捉え、日頃の練習の成果を存分に発揮し、全力のプレーを披露していただけることを期待しています」とあいさつしました。

また、N T T 西日本ソフトテ

ニス部の選手たちは、大会初日に現地入りし、大会期間中も、試合を待つ高校生たちにプレーを披露したり、熱心に指導したりしていました。表彰式にも出席し、入賞した生徒たちは、世界で活躍するトッププレイヤーから優勝旗や楯、メダルを授与され、感激していました。

■ふれあい教室

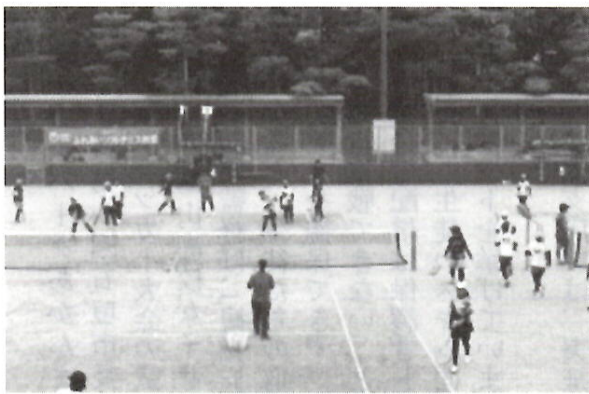
今年のふれあい教室には、昨年の約二倍となる十二校、一二九人の高校生が参加。開会式では、沖縄支店の廣瀬事業推進室長とソフトテニス部主将の林選手が、熱中症に注意しながら、一つでも多くのプレースキルを学んでほしいとあいさつしました。

ふれあい教室は、前日のソフトテニス大会（個人戦）で優勝・準優勝した高校生、計四ペアとのエキシビジョンマッチからスタートしました。ゲームが進むと応援の声にも熱が入り、ナイスプレーが生まれると、会場には大歓声が上がりました。

その後の講習会では、テンポを変えたフォアストローク、球

種（ドロロー、ストレート、スライス）を変えたフォアストローク、ステップワークを変えたハーフボレー、オーバーハンドサーブ・カットサーブ・忍者サーブ*の練習などを行いました。参加した生徒たちは、世界トップクラスの技術を学ぼうとソフトテニス部の選手たちの話に熱心に聞き入っていました。

閉会式では、NTT西日本ソフトテニス部の村上選手兼コーチから「高校三年間は、スキルがとてども伸びる時期。限られた時間を大切に過ごしてほしい」



レシーブの練習に励む生徒たち

い。また、今いる仲間は大人数になっても大切な仲間。ぜひ、大切にしてほしい」と高校生たちにエールを送りました。続いて、教室に参加した知念高校の生徒から「二カ月後の新人戦やインターハイに生かせるように頑張りたい。今日は教室を開催してくださりありがとうございます。ありがとうございました！」と感謝の言葉をいただきました。

最後に、参加者全員でシーサーポーズをしながら記念撮影。その後のサイン会では、生徒たちが帽子やユニフォーム、ラケットなどにサインをもらおうと大行列ができました。憧れの選手たちからサインをもらえ、楽しいひとときを過ごせた生徒たちには、笑顔があふれていました。

NTT西日本 沖縄支店では、これからも地域社会の活性化やアマチュアスポーツの振興に積極的に取り組んでいきます。

NTT西日本グループのソフトテニス部の皆さま、今年もありがとうございました！

*助走をつけたジャンピングサーブ。動画配信サービスで取

り上げられるなど、話題になっている。

琉球朝日放送の情報・報道番組「CATCHY（キャッチー）」で防災の取り組みを紹介！

九月二日（月）、琉球朝日放送（以下、QAB）の情報・報道番組「CATCHY（キャッチー）」に、NTTファイールドテクノ沖縄設備部 フィールドサービスセンタ（南風原）の喜舎場光輝さんと又吉颯人さんが生出演し、沖縄支店の防災に関する取り組みを紹介しました。

「CATCHY」は、毎週月曜日・金曜日の夕方に生放送で沖縄県内のイベントや暮らしに役立つ情報を発信する番組です。沖縄支店では、内閣府が定める防災週間（八月三十日～九月五日）、防災の日（九月一日）を踏まえ、防災情報の発信に力を入れているQABと連携し、沖縄支店の防災に関する取り組みを紹介することにしました。当日は、本番の二時間前にテレビ局を訪問し、スタジオでリハーサルを行いました。MCの



リハーサルを行うため、スタジオ入り

川満アンリさん、知念だしんいちろうさんも参加され、喜舎場さんと又吉さんは、番組の台本を読みながら、MCとの掛け合いや災害対策関連の映像とナレーションのタイミングなどを確認。最初は緊張していた様子の二人でしたが、スタジオは終始、和やかな雰囲気、MCの絶妙なリードもあって、笑顔を交えながら無事にリハーサルを終えました。

また、沖縄支店では、今回の番組PRと連動し、支店HPのお知らせ欄で、防災意識の向上に資する支店の取り組み事例などを掲載。さまざまな媒体を通じて、沖縄支店の防災の取り組みをPRできました。

沖縄支店では、これまでも、これからも、沖縄県民の皆さまに安心して通信サービスをご利用いただけるよう、防災の取り組みを積極的に推進していきます。



生放送を終え、みんなではいポーズ！
「CATCHY（キャッチー）」
左から、アンリさん（MC）、喜舎場さん、又吉さん、知念ださん（MC）

第十七回フードドライブ活動、食料品などの贈呈式を開催

NTT西日本 沖縄支店では、八月十九日（月）から九月三日（火）までの間、食品などの提供を呼び掛ける「フードドライブ活動」を実施し、九月十一日（水）にNPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄への贈呈式を開催しました。

NTT西日本 沖縄支店では、SDGs活動に積極的に取り組む「うない」グループがフードドライブ活動をけん引。二〇一六年度以降、毎年、お正月（二月）と旧盆（八月から九月）の時期に継続的に実施し、今回で通算十七回目になります。NTT西日本 沖縄グループの社員やその家族、退職者の皆さんにご協力いただきながら、年々、支援の輪が広がり、現在では活動が定着しています。

今回も、NTT西日本 沖縄グループのオフィスビルの拠点（城間、楚辺、勢理客、与儀、南風原、名護）と電電同友会の事務所などに回収ボックス



フードドライブ活動で寄贈した品々
（セカンドハーベスト沖縄事務所）

を設置。社員やその家族、退職者の皆さんに多大な協力をいただき、過去最高となる約一、七二五kgもの食品や一、〇八三枚の生理用品などをご提供いただきました。近年では、食品だけでなく、幼児用・介護用の紙オムツ、女性の生理用品などの提供も増えており、フードドライブ活動は、ますます地域貢献に欠かせないものとなっています。

ご提供いただいた食品など

は、古堅グループリーダを中心とした“うない”メンバーから、九月十一日（水）に、NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄へ寄贈し、奥平代表理事から感謝の言葉をいただきました。寄贈された食品などは、セカンドハーベスト沖縄を通じて、四二五世帯（延べ一、二七五人）の方々に届けられました。

また、今回の贈呈式の様子は、地元の新聞社（二社）が取材。NTT西日本 沖縄支店の社会貢献活動を広くPRすることができました。

NTT西日本 沖縄支店では、今後も“うない”グループを中心に、フードドライブ活動に積極的に関わり、沖縄県の地域の活性化や社会問題の解決に貢献していきたいと思っています。

次回のフードドライブ活動は二〇二五年一月に実施する予定です。

NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄 代表理事

奥平 智子様

この度も、NTT西日本 沖



古堅グループリーダ（左）から奥平代表へ寄贈

縄グループ内で活動している「うない」グループの女性社員の方から社員への呼び掛けにより、多くの寄付食品を届けていただきましたことを、心より感謝申し上げます。

今年で九年目を迎えるNTT西日本 沖縄グループのフードバンク・フードドライブの取り組みは、社会貢献活動の先進事例として、多くの企業や地域社会に影響を与え、広がりを見せています。

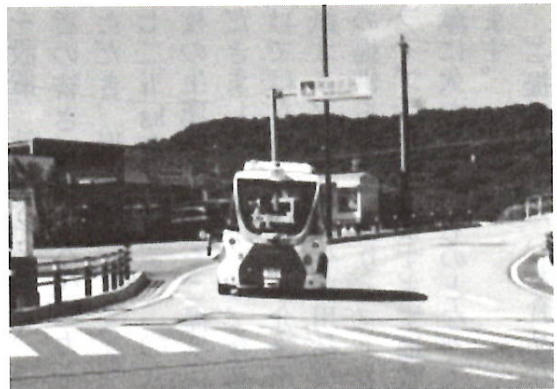
このような継続的なご支援は、沖縄で食品を必要とする方々へ届ける当法人の活動を支えています。

うないグループとNTT西日本 沖縄グループの皆さまの温かいご支援により、多くの方々が救われています。皆さまのご厚意に、心から感謝しています。今後とも、フードバンク・フードドライブへのお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

「南城市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を実施しました！

沖縄支店では、十月十二日（土）から十月十八日（金）まで、南城市・マクニカと共に、「南城市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を実施しました。

本事業では、南城市の知念体育館前駐車場（がんじゅう駅）と斎場御嶽駐車場間を走行。公道での自動運転レベル2で走行するのは、NTT西日本グループとして初めての取り組みとなりました。実証調査の前日には、試乗会を開催し、当真副市長や安慶名沖縄振興推進部門長、V D部の宮崎部長など、本事業の関係者が自動運転の安全性や乗



検証ルートを自動運転で走行

り心地を体感しました。

車両は、フランスのスタートアップ企業で、NTT西日本やマクニカが出資するNAVYAの最新車「EVO」を採用。LiDARと呼ばれる高精度センサーを十個搭載しており、三六〇度に赤外線を照射して障害物の反射速度を計測することで、瞬時に障害物と車両間の距離を測定し、車両が障害物を回避できるようにしています。

信号機のある一部の区間では、安全性の観点から、手動での走行になりますが、ほぼ全ての区間において、運転手（オペレーター）がアクセル／ブレー

キの操作をすることなく、車両が自動で走行しました。試乗した皆さんは、一般車両と遜色ない走行に驚きつつ、今後、南城市に本格導入されることに期待していました。

今後は、二〇二八年度に自動運転サービス（レベル4）を社会実装できるよう、実証調査を積み重ね、地域住民および観光客の皆さまが安心して利用できる高品質で安全性の高い自動運転サービスの実現をめざしていきます。

なお、今回の実証の様子は、地元の新聞社やテレビ局にも大きく報じられ、社外プレゼンス



自動運転走行前に関係者で記念撮影

の向上にもつながりました。

沖縄支店では、今後もICTやAIなど、最先端の技術を活用し、社会課題の解決や地域のさらなる活性化に貢献していきます。

地元テレビ番組で「フレッツ光 全戸加入プラン」をPRしました！

沖縄エリアでは、BS・FTの関連部メンバーで構成されるプロジェクトチーム「結フォースII」のもと、沖縄県内のホテルに対して、「フレッツ光 全戸加入プラン」を拡販しようと積極的に取り組んでいます。

今回、沖縄支店では、沖縄エリアにおける「フレッツ光 全戸加入プラン」の認知度の向上などを図るため、地元テレビ局の二番組で、県内ホテルへの導入事例をPRしてきましたので、その取り組みをご紹介します。

1. ザ・ムーンビーチミュージアムリゾート

八月二十九日（木）、沖縄テ

レビの情報番組「むるじょーとーむん ワッターまちやぐわー」にて、ザ・ムーンビーチミュージアムリゾートの導入事例を紹介していただきました。

ザ・ムーンビーチミュージアムリゾートは、一九七五年に恩納村で開業し、月光を浴びて輝く三日月形の白浜「ムーンビーチ」に面したリゾートホテルです。光と風の建築が特徴で、館内は、吹き抜ける風が心地良く、柔らかな光が差し込みます。

ザ・ムーンビーチミュージア



ザ・ムーンビーチミュージアムリゾートホテル内
話題のスポット「グリーンカーテン」で撮影

ムリゾートでは、通信速度に起因する顧客満足度の改善や、将来、客室でスマートテレビなどを利用できる環境を整備するため、本年三月に「フレッツ光 全戸加入プラン」を導入していただきました。テレビ番組の取材に対し、アシスタントアートディレクターの中島 聖二郎さんは、『フレッツ光 全戸加入プラン』の導入後、ホテルのリーダーさまから『以前よりもWi-Fiが快適になって助かる』と喜びの声を頂戴している」と、「フレッツ光 全戸加入プラン」の導入効果を語ってくださいました。

また、沖縄支店からは、NTTビジネスソリューションズの喜瀬 由美さん、岡田 律子さん、光ビジネス営業部の新里 沙和子さんが取材に応じました。笑顔の絶えない和やかなムードの中で撮影が進み、ザ・ムーンビーチミュージアムリゾートの導入事例をしっかりとPRすることができました。

2. ラグナガーデンホテル

十月十七日（木）、琉球放送

の情報番組「ゆうわく時間」にて、ラグナガーデンホテルの導入事例を紹介していただきました。



インターネット環境のお悩みを解決します！
(ラグナガーデンホテルで撮影)

ラグナガーデンホテルは、ぎのわん海浜公園（宜野湾市）に隣接し、緑と青空のコントラストが美しいプールサイドリゾートホテルです。一九九二年に開業し、客室からは、自然の息吹を感じながら東シナ海の絶景を堪能できます。

ラグナガーデンホテルでは、Wi-Fiの接続の不具合や回線容量の不足などを改善し、一刻も早く快適なWi-Fi環境

を構築することでゲストの満足度を向上したいと、本年三月に「フレッツ光 全戸加入プラン」を導入していただきました。テレビ番組の取材に対し、管理部総務課 部長の仲間 一栄さんは、「導入前は、お客さまから『Wi-Fiがつながりにくい』といった声が寄せられましたが、Wi-Fi環境を強化したことで、室内テレビでの動画視聴をはじめ、より快適にホテルステイをお楽しみいただけていると感じています」と快適なWi-Fi環境を構築できたことに確かな手応えを感じているようでした。

また沖縄支店からは、NTTビジネスソリューションズの新里 沙和子さん、NTTビジネスフロントの照屋 隆之さん、NTTフィールドテクノの高橋和輝さんが取材に応じました。琉球放送のディレクターに対して、撮影場所や撮影シーンのアイデアを積極的に提案。スムーズに撮影が進み、ラグナガーデンホテルの導入事例をしつかりとPRすることができました。

「第三十回 一万人のエイサー踊り隊」でMABUI太鼓が勇壮な演舞を披露！

十月二十日（日）、沖縄の一大イベントの一つでもある「二万人のエイサー踊り隊」が那覇市の国際通りで開催されました。昨年は台風の影響で中止となり、二年ぶりの開催となりました。本イベントでは、県内各地から青年会や創作エイサー団体などが勇壮なエイサーの舞いを披露。沖縄支店は、NTT沖縄グループの社員で構成した「MABUI（マブイ）太鼓」のメンバー二十人が出場し、会場を大いに盛り上げました。

「MABUI太鼓」は、これまで社内外のイベントでエイサー演舞を披露するなど、地域の活性化や沖縄エリアの一体感醸成に大きく貢献しており、今年で設立十周年を迎えました。チーム名の「MABUI」とは、沖縄の方言で「魂」を意味し、MABUI太鼓による圧倒的な演舞に憧れて加入する転入者も多数います。また、演舞イベントの際には、県外に異動したメ



応援に駆け付けた社員の皆さんと記念撮影
最高の笑顔です！



勇壮な演舞の模様

ンバーも沖縄に駆け付け、沖縄メンバーと一緒に演舞を披露するなど、MABUI太鼓のメン

バーの固い結束力を感じます。今回のイベント出演にあたって、MABUI太鼓のメンバーは、多忙な業務の中でも、本番に向けて、日夜練習に励んできました。

こうした中で迎えた本番。MABUI太鼓のメンバーは、「七月エイサー」「帰る場所」「唐船ドリー」の三曲を2ステージ(御菓子御殿前、てんぶす館)で披露しました。多くの社員が応援に訪れ、また、沖縄県民の皆さまや国内外の観光客などが沿道を埋め尽くし、MABUI太鼓のメンバーは、チーム名の通り、魂の込められた勇壮な演舞で観客を魅了しました。

沖縄支店では、これからもNTTグループが一丸となつて、地域の活性化に取り組んでいきます。

「石垣市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を実施しました！

ラグナガーデンホテルでは、WiFiの接続の不具合や回線容量の不足などを改善し、一

刻も早く快適なWiFi環境を構築する沖縄支店では、十一月十二日(火)から十一月十六日(土)まで、「石垣市における自動運転の実証・実装に向けた調査事業」を実施しました。

本事業では、石垣市・NTT西日本・NTTビジネスソリューションズ・東運輸・マクニカの五者が連携。自動運転EVバスが石垣市のユーグレナ石垣港離島ターミナル・南ぬ浜町緑地公園・石垣港新港地区旅客船ターミナル間の片道約3kmを自動運転レベル2で走行しまし



自動運転走行前に各者の代表者で記念撮影

た。

実証調査の前日には、各者の代表者が集まり、セレモニーを開催。石垣市の中山市長、NTT西日本からは、木上副社長やVD部の宮崎部長が出席しました。代表者あいさつで、木上副社長は、「今回は自動運転レベル2の実証を行う。ぜひ、多くの人たちに試乗していただき、さまざまな意見を頂戴しながら、将来の自動運転レベル4での運行の実現に向けて、取り組みを加速していきたい。従来の“人と人をつなぐ”通信サービスだけでなく、社会課題の解決につながる新たなサービスを数多く展開し、地域の皆さまが笑顔になれるように取り組んでいきたい」と実証への想いと今後の展望を力強くお話しいただきました。

その後、各者の代表者は、テブカットを行い、自動運転バスに試乗し、自動運転の安全性や乗り心地を体感しました。

また、今回の実証の様子は、地元の新聞社やテレビ局など(十社)で大々的に報じられ、自動運転に対する社会からの期



多くのメディアが取材に訪れました

待や関心の高さが伺えました。特に、各メディアは、中山市長に試乗後の感想・コメントを求めようと、降車場で待ち構えるほどでした。中山市長は、「スムーズな走行で、乗り心地も良かった。今回の実証が成功すれば、今後、市民やお年寄りの皆さま向けに、市内を循環するバスを運行させるのも良いかもしれない」と本格導入に前向きな感想を述べられました。

沖縄支店では、二〇二八年度に自動運転サービス(レベル4)を社会実装できるよう、今後も実証調査を積み重ね、地域住民および観光客の皆さまが安心し

て利用できる高品質で安全性の高い自動運転サービスの実現をめざします。

退職者の皆さまとの交流会を開催しました！

NTT西日本 沖縄支店では、十一月二十一日（木）に退職者の皆さまをお迎えし、これまでの感謝の気持ちを伝えるとともに、親交をさらに深めるための交流会を開催しました。今年度は一八人の退職者の皆さまがご参加されました。交流会の開催に先立ち、会場内のスクリー



MABUI 太鼓の皆さんによるエイサーと三線を演奏する古江支店長（壇上中央）

ンで本土復帰五十年の節目に制作された沖縄支店のCMを放映。その後、沖縄電友会および退職者の会のメンバーで構成される三線サークルのメンバーが余興として、「かぎやで風節」「御縁節（ぐいんぶし）」「揚作田節（あぎちくてんぶし）」の三曲を演奏し、華やかな幕開けとなりました。

開会のあいさつでは、古江支店長が「沖縄支店では、先輩方から引き継いできた『つなぐ』という使命をしっかりと果たし、地域の皆さまに、安定した通信やサービスを提供すべく、取り組んでいます。また昨今は、自動運転、AIカメラを活用したスポーツ関連のライブ配信など、新しい取り組みにもチャレンジしています。今後も地域の皆さまのお役に立てる、期待に応えられる存在となるように、沖縄エリア一丸となって取り組んでいきたいと思っています。引き続き、ご支援をよろしくお願いします」と沖縄支店の近況を交えながら、退職者の皆さまに感謝の気持ちを伝えしました。

その後、沖縄分会の比嘉分会長による来賓あいさつ、退職者の会の金城会長による乾杯の発声で、交流会はスタート。退職者の皆さまは、旧友との再会や現役社員との交流を楽しんでいました。今年の出席者の最年長者は九十四歳。幅広い年齢層の方々が一堂に会し、世代を超えた交流となりました。

交流会の終盤では、現役社員による余興として、今年創立十周年を迎えたMABUI太鼓のメンバーが「七月（しちがち）エイサー」「帰る場所」「唐船（とうしん）ドリー」の曲に合わせて、沖縄県の伝統的な演舞であるエイサーを披露。また壇上では、古江支店長、事業推進担当の與儀さん、仲村さんがMABUI太鼓の演舞に合わせ、三線を演奏しました。出席者たちは壇上前に集まり、圧巻のパフォーマンスに魅了されました。最後の演舞曲の唐船ドリーでは、交流会に参加された皆さまも参加し、一緒にカチャーシー*を踊りました。会場が一体になり、楽しいひと時となりました。

最後は、沖縄電友会の仲本会長による閉会のあいさつで、本交流会は盛況のうちに幕を下ろしました。

NTT西日本 沖縄支店では、支店スローガンである「これまでもこれからも沖縄の皆さまとともに」のもと、引き続き、退職者の皆さまが築いてきた歴史やマインドを、次の世代へしっかりと引き継いでいけるように、今後も尽力していきます。



交流会に参加された退職者の皆さまとシーサーポーズで記念撮影

NTT記者会見で紹介された

「nwm ONE」とは？



音のテクノロジーで共存を叶える「耳スピ」

2024年度第1四半期決算会見で島田社長が自ら装着し、記者にもその場で体験いただいた「nwm ONE（ヌームワン）」をご存じでしょうか。

穴の空いたヘッドホンのような見た目の本製品は、音響関連事業会社であるNTTソノリティが展開する

音響ブランド「nwm（ヌーム）」が発売した「耳スピ」シリーズのうちの一つです。

耳スピとは、耳スピーカーの略で、まるで耳元にスピーカーがあるかのような広がりのある聴こえ方が特長のオープンイヤー型デバイスです。NTTコンピュータ&データサ



「いい音流れてます。」と島田社長



開放的で軽量。一日中着けていられる。



耳をふさがらないから会話もできる。

イエンス研究所が開発した音響信号処理技術である「PSZ（パースナライズドサウンドゾーン）」技術を搭載することで、周囲への音漏れを抑制します。これまでに完全ワイヤレスタイプや有線タイプの耳スピを発売してきました。

2024年7月に発売したnwm ONEは、ブランド初のオーバーヘッドタイプです。中高域用と低域用の二つのドライバーを搭載することにより、見た目からは想像のつかない豊かで迫力のある音質を実現しています。PSZ技術の他にも一つ、必要な音だけクリアに届ける特許技術「Magic Focus Voice」を搭載することによ

り、オンライン会議や通話の際、周囲の雑音をカットして自分の声だけを相手に届けることができます。約185グラムと非常に軽量で疲れにくいのもポイントです。

耳をふさがらないのに音漏れも気にならない耳スピは、コミュニケーションの課題や耳の健康問題を解決し、新しい働き方・暮らし方の可能性を広げます。例えば、好きな音楽やラジオを高音質で楽しみながら、周囲の音や家族・友人の呼びかけに気づくことができる。従来のイヤホンやヘッドホンのように耳元を密閉していないため、耳が蒸れず、一日中着けていられる。さまざまなシーンで周囲と「共存」できる耳スピを、ぜひあなたの生活にも取り入れてみませんか。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

◆島田社長より

見た目から画期的で、音漏れもしないのには、自社の技術ながら驚きです。音質も二つのドライバーのおかげで、非常に優れています。この機会にぜひ多くの人に耳スピを体験していただきたいです。

電気通信設備の テクニカルサポート技術者募集！

★あなたのやる気をしっかりサポートいたします！

NTTフィールドテクノでは、
多種多様なフィールドネットワーク環境に関する案件等、
さまざまなご要望にワンストップでお応えできる体制のもと
お客様お一人おひとりの安心・安全を支える会社を目指しています。



募集要項		応募方法	
職種	○NTT電気通信設備の保守 ・宅内設備の設備管理・故障修理などの宅内保守業務 ・線路設備の設備管理・故障修理等の業務 ○ICTシステム営業・構築 ・ICT、エネルギー分野の営業・SE・構築・保守などの業務	応募	応募締切日迄に添付の履歴書(写真貼付)を郵送願います。(写真は、3ヶ月以内のものを使用)書類審査後弊社より、筆記・面接試験日及び会場等をお知らせします。
給与	○基本賃金(時給制、月給制) ・基礎賃金 時給制:1,073円/H※1 - 月給制:152,080円/月※1※2 ※1:各種手当支給制度有 ※2:当社が定める条件・資格を保有する場合、月給制にて採用(時給→月給のステップアップ有)	送付先	〒901-2133 住所 沖縄県浦添市城間4丁目35番1号 NTTフィールドテクノ沖縄設備部 総括担当 TEL 098-871-2830
待遇	- 賞与年2回、各種社会保険完備 - 交通費支給(当社規定による)	応募様式	市販の履歴書に記入願います。 ※応募に関する個人情報、他の目的には、一切使用しません。 ※応募書類の返却はいたしかねますので、あらかじめご了承ください
求める人材	情報通信社会を支える技術のプロフェッショナルとして、熱意をもってお客様へ最高のサービスを届けることのできる人	応募締切日	2025/3/31
学歴	不問	試験日	随時
契約期間	- 契約社員として雇用開始から継続して3年を限度概ね半年毎の雇用契約更新(試用期間:3ヶ月) - 本職種は、正社員への登用制度有り	雇用予定日	応相談
勤務時間	標準 9:00~17:30(一部シフト勤務あり)	会社概要	
休日	週休2日制 年末年始休暇(12/29~1/3)	名称	株式会社NTTフィールドテクノ
勤務地	楚辺、南風原、石垣島、宮古島	本社所在地	大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82 NTT西日本新京橋ビル
募集数	若干名程度	資本金	1億円
問合せ先		社員数	約16,000名
問合せ先	NTTフィールドテクノ沖縄設備部 総括担当 中嶋・諫山	事業区域	・故障受付・電話サポートなどコールセンタ業務 ・宅内設備の設備管理・故障修理などの宅内保守業務 ・設備業務に関する技術者育成の業務 ・ICT、エネルギー分野などに関わる工事・保守・訪問サポートなどのオンサイトサービス など
電話番号	098-871-2830		
E-mail	kenta.nakajima@west.ntt.co.jp		
受付時間	平日 10:00~17:00		

沖縄で活躍している社員の声をご紹介します！

沖縄設備部 フィールドサービスセンタ

宮城 カ也（入社2年目）

前職での仕事を続けることに将来の不安を感じていたときに、親戚からの勧めで去年の5月に入社いたしました。

別業種からの転職で不安もありましたが、優しい先輩や信頼できる上司に恵まれ、右も左もわからない私に通信の仕組みを1から丁寧に教えてくれました。

業務もスマホを駆使し、極力ミスがないように支援してくれるので安心です。また資格習得も支援してくれ、今後のキャリアアップの道筋を示してくれるため、意欲をもって自主学習に励んでいます。

職場の雰囲気も良く安心して働ける職場ですので、転職してよかったと思っています。



沖縄設備部 フィールドサービスセンタ 八重山センタ

東田 康正（入社2年目）

◆当社に決めた理由

以前からパソコンや通信機器に興味があり、その中でこの会社の契約社員募集記事が目に入り自分のやりたい事と合致していたからです。

他にも福利厚生や正社員への登用制度が有る点も決め手になりました。

沖縄設備部 フィールドサービスセンタ 八重山センタ

平瀬 虎太郎（入社2年目）

◆職場はどのような雰囲気ですか？

元気な人が多く常に笑いの絶えない職場です。そのため、苦しい時期でもみんなで協力しあって仕事に取り組めます。

皆さん優しいので誰かが困っていると、みんなでサポートしあって問題に取り組んでくれます。

沖縄設備部 フィールドサービスセンタ

喜舎場 光輝（入社3年目）

■この会社で働く魅力

多岐にわたる分野の業務がありますが、業務に関する研修や資格取得等に向けたサポートが充実しているので、本人の努力次第で自己成長が可能です。また、スキル習得や資格取得の結果もしっかりと評価してもらえた上でキャリアアップができるところが大きな魅力です！



福建師範大学で講演

國 吉 克 哉

(平成十三年三月退職)

仲本会長と國吉が中国の福州市にある福建師範大学で、令和六年十月、学生や研究者を前に講演をしました。二人は久米崇聖会の理事長を共に務めたことから、中国人の末裔である久米三十六姓当事者の目線で話を聞かせてくれと、大学から声が掛かりました。

福建師範大学は中国福建省の省都福州市にあり学生数五万人、キャンパス内の移動は自転車や車だろうかと心配するほど広大でした。県人が福州へ行くとは一度は訪れる琉球人墓の近く、旗山区に大学があります。学内にはベトナムやタイなど東南アジアと中国の交流の歴史を研究する研究所があり、その一

つに「中琉関係研究所」があつて十四世紀頃に始まる中国と琉球の交流の歴史、久米三十六姓の事などの研究拠点となつていきます。

講演の会場は中琉関係研究所の入るビル二階の大教室で、既に八十人余が待っていました。研究所所長の頼正維教授を始め中国と琉球の歴史研究者そして大学院や学部の子生達です。そんな会場で話の持ち時間は夫々一時間半です。僕は歴史書に書かれていない昨今の久米三十六姓のことと、所属する梁氏門中について話しました。

まず、閩人三十六姓(注1)の琉球渡来から薩摩と中国への両属関係の時代、そして明治十二年の琉球処分で中国と琉球の関係が途絶えた歴史を手短に話しました。琉球処分で消滅した久米村の組織に代わり大正初めに久米崇聖会を設立して、十四世紀以来伝えて来た中国文化を今に継承し、戦後は孔子廟を再建したことを紹介しました。

閩人は久米に暮したので久米三十六姓と称され、その門中の

一つで、僕の出自である梁氏(注2)の事が次の話題です。梁氏は十四世紀頃に現在の福州市長楽区呉航江田の人「梁嵩」が琉球へ渡つて来て始まった父系の血縁集団です。日々の暮らしや習俗にも中国の影響が今に残り、戦前から続く清明祭・ウマチーなどの祭祀行事と、年寄りを敬う敬老会、若者を激励する学事奨励会を毎年開催しています。十年前には門中を法人化して一族の財産を保全し、子孫へ代々引き継ぐ仕組みを作りました。親子レクや梁氏美術展の開催など新しい施策を試み、会員の相互扶助や結束に務め、中国や台湾の梁氏とも交流して友好を深めている事を話しました。

福州市長楽区にルーツがある琉球梁氏だが、親戚がいるのではないかと会場へ問いかけると女子学生が手を挙げてくれました。残念ながら福建省出身ではなかったが、宋時代の偉人梁克家まで辿れば親戚かもしれないと連帯を伝えました。

仲本会長はお父さんが語っていた祖父と父が暮らした福州琉

球館について話しました。

祖父英炤が琉球館で暮らしたのは明治末から大正の時代で、琉球館は既に本来の役目を終えて、乙商業学校で英語教師をしていた祖父や茶貿易商の儀間さんが住んでいました。父昌達は小学校六年迄ここで過ごし、日本人学校に学んでいます。祖父は福州時代の蒋介石と親交があり、東京の軍人養成学校へ留学



仲本会長の講演



講演会開催の学内告知（電子版）

する蒋介石を日本へ案内しました。日露戦争に勝利した日本は軍人志望の中国人の留学先だったのです。台湾総統となった蒋介石は恩に報い、亡くなった祖父に代わり息子夫婦を戦後台湾へ招待しています。仲本家の仏壇には祖父と写る軍服姿の中国人の写真が飾られており、それをスクリーンに出して、軍人が誰なのか、また所属や階級を知りたいと仲本家の積年の疑問を投げ掛けました。皆さん興味津々で大学の元図書館長が調べると約束してくれました。祖父は後に福州を離れ那覇の商業学

校で支那語の先生になります。琉球歴史の至宝である「歴代宝案」^{（注3）}を久米の旧家で発見したのはその頃です。その経緯が東恩納寛惇の著書に書かれています。

質疑に入るとさすが研究者やその卵とあって、司会に促されること無く次々と発言があり時間が来て打ち切られました。彼らは書物や物で琉球歴史を勉強研究していますが、当事者からしか得られない情報から起こす研究課題があるのだと改めて感じたとか、琉球館を語る生き証人が現れ驚きだと感想を述べるので、我々が福州まで出かけ、話をしたのが何かの役に立ったようでホッとしました。

大学での話を終えた翌日、福州国際空港に近い長楽区梅花鎮を訪ねました。

梅花鎮には琉球蔡氏の女性、蔡夫人を神とする廟があることや、閩江の河口に位置し、進貢船が出入りした史実があつて、琉球と中国の交流をテーマとする「長楽梅花中琉文化館」が造られました。その時代考証には

福建師範大学が関わっていて、そのご縁もあり開館式直前の現地で、福州市長楽区の区長へ那覇市長から預かった「長楽梅花中琉文化館」への開館祝辞を届けました。

もう少し説明する

と中琉文化館のある梅花鎮は中国との交易のため那覇を出港した進貢船が福州を目指して東シナ海を航海し、最初に目にする陸地で、目の前の閩江を遡れば福州城内へ到着します。また蔡夫人廟に名が残る琉球生まれの蔡夫人は織物の名手で皇帝に招かれ中国へ渡りましたが梅花鎮で亡くなり、神となつて祀られています。梅花鎮の地域では今も神として広く信仰されて「琉球蔡夫人廟・琉球國蔡仙府・鶴上蔡氏夫人宮・新厝房祖庁」と4か所も廟がありました。

今回、縁あつて福建師範大学で話す機会があり、大学でも梅花鎮の蔡夫人廟でも中琉文化館でも、熱烈歓迎を受けました。



長楽梅花中琉文化館

互いの交流の歴史が沖縄へ中国文化をもたらし、我々県民の中に、祭祀や方言の一部として今も残り、互いに親近感が持ち合える故の大歓迎だと思えます。久米三十六姓の末裔に生まれ、中国・琉球の交流の歴史を学び、そして伝える責務を再認識させる旅でした。

注1 閩人三十六姓（びんじん）

福建省の古い呼び名は「閩」である。その閩の国の多数の人々を意味する

注2 梁氏（りょううじ）

閩人三十六姓の一人、「梁嵩」が始祖でその姓から梁氏と云う

注3

歴代宝案（れきだいほうあん）琉球王府四百年余の外交文書を取録する。焼失し現存せずとされていたが昭6年発見

価値観のすれ違い

慶田 永孝

(平成十三年三月退職)



絵で解る「琉球王国」「歴史と人物」を読んだ。

沖縄を代表する政治家の一人で、首里王府の最高職である「摂政」も務めた羽地朝秀と三線音楽の基礎を築き歌に生きた湛水親方(本命 幸地賢忠)二人の歴史について少しひもといてみたい。

羽地朝秀(以下「羽地」という)の家は王家の血を引く首里士族の名門である。しかし羽地が生まれる数年前に琉球は薩摩の侵入を受け、以後王国のまま江戸幕府の支配下に置かれていた。

財政は疲弊し、国家としての主體的な生き方と希望を見失っていた時代に、羽地は数々の政策で財政を立て直し、生涯をかけてその後の琉球王国の道筋までを示した優れた手腕の持ち主であった。その間、薩摩へ上国し当時の日本の制度、風習、文化、経済等つぶさに観察し吸収した。

一六六〇年九月、首里城宮殿が失火により炎上、消失してしまった。

この困難を乗り越えるには直接交渉が必要だと判断し再び薩摩へ渡り援助を求めた。その結果、薩摩に納める税の大幅な軽減が認められた。何事も早めに行動を起こすことに意義があると思った。

羽地は論理的な思考と押し強さ、そして行動力が危機を救った。羽地の行動力に薩摩から信頼される存在となった。

いっぽう古典の創始者、湛水親方「幸地賢忠」(以下賢忠という)は国王一族の子孫であり、琉球独自の音楽芸能を作り

上げた人物である。

幼い頃から感性豊かで芸事に熱心だった賢忠であったという。生涯をとおして賢忠が就いた役職は王子の後見人、平等之側(ひらのそば) 今で言う裁判所長官、鎖之側(さすのそば) 今で言う総務長官と赫々たる職歴である。

賢忠の仲島通いは愛する妻を失った淋しさから仲島に通うようになる。仲島とは辻と並ぶ琉球の遊郭街であった。薩摩、中国人、首里那覇の上流人など訪れた客人をもてなす場であり三線が鳴り、歌が詠まれる、要するに文化交流の空気が漂う場であった。

賢忠は仲島に通う中で一人の遊女と運命的な出会いをする。その遊女が思戸(うみと)である。賢忠とは親子ほどの年の差であったが二人の間には客を超えた関係が生まれた。

羽地は国内の風紀を厳しく取り締まり儉約路線の政治を行っていた。実は羽地は賢忠の6歳年上の従兄弟にあたる人物で、

羽地が賢忠の「仲島通い」を知って激動したという。

当時の遊郭は王府の承認下にあったことから、賢忠は罪に問われることはなかった。

しかし、王府高官としての地位を考えたとき褒められる行動ではなかった。結局羽地によって賢忠は免職処分となった。首里を追われ思戸(うみと)の出身地である具志川田場(現うるまし市)に移り住んだ。羽地と賢忠とは芸能に関する考え方にも大きな違いがあったといわれている。

賢忠は大和芸能も中国芸能も積極的に取り入れながら独自の琉球芸能を作り上げようとした考えに対し羽地は「日琉同祖論」を唱えた。大和を中心とした芸能こそ肝要であり、琉球独自の芸能は好ましくないとの考え方である。

つまり、羽地は日本人と琉球人は民族的に同一である。

更には、琉球と中国との繋がりを否定した。羽地と賢忠はそうした日頃からの価値観のすれ違い

いも影響したのか妥協点を見出すことが出来なかった。

羽地が亡くなった翌年、尚貞王は才能溢れる賢忠をそのまま隠居させるわけにはいかないと、思いから賢忠を首里王府の役人として復帰させた。

羽地も賢忠もそれぞれ高い見識を持った兩人であったが摂政という役職の力に押し切られた賢忠はやりきれない気持ちで

漫画のような・・・

真喜志 彰

(平成十三年三月退職)

人は信じられないような出来事が起こった時、「まるで漫画の様な出来事」とか「事実は小説よりも奇なり」あるいは「TVドラマのようだ」又は「奇跡が起こった」などと表現することがある。そのような出来事はしばしばスポーツの世界では目にする。

この二、三年の間に、TVを

あったであろう。

人は、顔かたちが違えば考え方も違うといわれるが、しかし一大事業を展開していくためには相手の立場に立った考え方も如何に大切であるかを考えさせられた。

羽地と賢忠それぞれが歩いた人生の哀しみと喜びに心を打たれた。

通して漫画のような出来事に何度か遭遇して驚き、興奮して血圧が上がり、強く記憶に残って



いることがある。

二〇二二年に行われたサッカーのワールドカップで、「三苦の1ミリ」と呼ばれる漫画のようなゴールライン上ギリギリの奇跡のアシストで、強豪スペインに二対一で日本が逆転勝利し、世界に衝撃を与えたことは記憶に新しい。VARがなければ、審判は間違いなくラインを割っていたと判定したに違いない。

またプロの将棋棋士にわずか十四歳で昇格し、そのまま公式戦最多連勝の新記録の二十九連勝を達成した藤井聡太は、弱冠二十一歳の若さで史上初の八冠独占を果たした。あまたのプロ棋士が群雄割拠する弱肉強食の世界で、まさに「漫画のような出来事」である。彼の頭の中の構造がどうなっているのか覗いてみたいものである。

それから、我らが愛するメジャーリーグの大谷翔平も、いくつかの漫画のような奇跡を起こし、人々を歓喜させたのである。

エンジェルズからドジャースに移籍して新天地で迎えた今年二〇二四年の翔平は、右腕の手術で投手としてはリハビリ中だった。そのため春先のキャンプでは、投球練習ではなく、スタートダッシュの練習が繰り返行われていたシーンをしばしば目にした。

そしてシーズンに入ると、ホームラン王はまでも、盗塁王も狙っているのかと思われるほど打って、走って、まるで漫画のようなとてもないことになっていたのである。

翔平のDHとしての圧倒的なパフォーマンスの活躍は見応えがあり、特にホームランや盗塁が増えて漫画のような感動の連続だった。

この年、翔平の面白い漫画劇場を選ぶとすると二つにつきる。

一つ目は、八月二十三日のレイズ戦で同点の九回裏、2アウト満塁のチャンスで、翔平は相手左投手の初球のスライダーを振り抜くと、センター後方のス



タンドまで運ぶ四十号サヨナラ満塁ホームランとなり、史上六人目となるホームラン四十本、四十盗塁「40-40」に史上最速で到達したのである。何といつてもサヨナラ満塁ホームランは野球の華であり、漫画の中の漫画である。まさに「イツツ、ショータイム」である。

二つ目は、九月十九日、敵地マイアミでのマーリンズ戦で、何と、何とあるうことか三打席連続本塁打を放ち、六打数六安打、十打点、二盗塁と大暴れしたのである。「事実は小説より

も奇なり」、まさに異次元の出来すぎである。漫画家でもあまりにあり得ないことだと、さすがに恥ずかしくて描かないだろう。翔平の起こした今シーズンで最高の奇跡の漫画劇場であった。

また、この試合であつさり前人未到の「50-50」を達成したばかりでなく「51-51」にまで到達したのである。果たして誰がこの記録を想像したのだろうか。翔平はいつも専門家の想像を超えている。

ホームラン五十一本と同じく、過去最高の二十六盗塁をはるかに超える、五十一盗塁を決め、しかも成功率が脅威の九十三%だったということも漫画の世界であり、笑うしかなかった。

実況中継のアナウンサーは、「翔平は唯一無二の選手、彼は人間ではない、ユニコーンである」と興奮して大声で叫んでいた。

そうなのだ、翔平は漫画に登場するような宇宙人、野球星人

なのである。今や漫画の主人公なのだ。

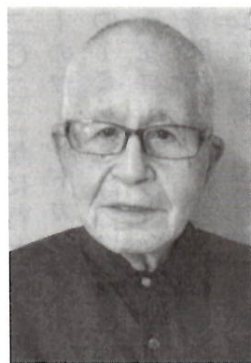
この快挙には、世界中のニュースやSNSを賑わせて、日本では新聞が競って号外を配ったのである。きつとこの日のことは、深く人々に記憶されて、MLBを見る度に思い出すに違いない。

結局、レギュラーシーズンが終わってみれば、開幕直後の通訳のギャンブル問題の不祥事も吹き飛んで、翔平は今まで最高の五十四ホームランを放ち、ナ・

不動心の電友会長 宮城長景さんを悼む

宮城 章

(平成五年三月退職)



令和六年九月二十三日に尊敬

リーグのホームラン王となり、またリーグ二位の五十九盗塁で「54-59」を達成したのであった。イチローの記録の五十六盗塁も超えたのである。

何といつても翔平の漫画劇場は実に面白い。翔平がバットを振って走れば面白い漫画が出来るのである。

来年は右腕のケガも回復して、投げて、打って、走って「三刀流」の翔平の漫画劇場を見るのが楽しみである。

する宮城長景さんがお亡くなりになった。満九十三歳で天寿を全うされたのである。

長景さんは、皆様のご承知の様に我等が機関紙「電友会報令和四年一月号」まで俳句の投稿を継続されたのである。

これは、作品投稿の最年長者の「最長記録」であります。

その最中、俳句結社的那覇の月一度の「おれづみ句会」にも参加されてお元気であった。

その後、脑梗塞に罹り治療されてお元氣になられたが、二年ほどして脚の怪我を治療されて養生のために「おれづみ句会」を退会された。その後は、不具合も無くお元氣でお過ごしであつたのである。以後二三度お伺いしたが、何時も笑顔でお過ごしであつた。

長景さんの笑顔は、当時有名な落語家の「三遊亭円楽師匠」によく似ていたので私は、「円楽さん」と声かける事があり、親しみの心をご承知して鷹揚にニコニコされていた事を思い出す。優しいながらも物事のケジメは、厳しくて厳格ではあるが人に接するに親切丁寧な真面目に話しかけ優しく聞き分けのあるジェントルマンであつた。

私は、日頃から先輩や同輩と語らう時は、高齢になると日常必ず外出し適度のウォーキングをする様にお勧めするのであるが、長景さんも天寿を全うされたのでこれは十分に心得ておられた事と信ずるのである。

長景さんの生まれは、名護市

東江である。皆さんもご存じの様にな護人には「名護マサー」と呼ぶ愛称がある。直訳すれば名護の優れた者の事である。

私は、外連味が無い名護人は好きで友人が多い。優しいながらもハッキリ物を言う長景さんは正に「名護マサー」であつたと思うのである。今時惜しい人であつた。

さて、平成四年に「歩く会」「短歌界」「俳句会」の三つのサークル活動が開始し、電友会長は藤田豊久氏であつた。

サークル設立功労者の国吉順達氏を中心に歩く会会長は松永壮佑氏、俳句会会長は山城正弘氏、誠実で雄弁な豊岡勇氏、文武両道の有銘興英氏、文芸万能の小渡有得氏、短歌は、国吉氏が指導し、サークル活動は順調に進み、平成九年に「第一合同歌集日溜まりの道」が完成した。平成十四年に俳句サークル会員の宮城長景さんは電友会長に抜擢され就任されました。平成十六年に合同歌集第二号として「うたごよみ」を発行し

ましたが平成十五年に国吉順達氏のご逝去になり残念でなりません。心よりご冥福をお祈り致します。短歌会は以後、米須清正氏が引き継ぎました。

一号歌集の日溜まりの道には立派な先輩や同輩達が多数参加しました。二号歌集の「うたごよみ」には宮城電友会長の序文と俳句、短歌が載り、その一端をご紹介します。

第二号歌集序文一端 「うたごよみによせて」

宮城 長景

第一歌集「日溜まりの道」の発刊は、平成九年でした。あれから七年目にあたる今年、第二歌集「うたごよみ」を発行される事は誠におめでたい事であります。この七年の間には、皆さんの俳句、短歌に対する取り組みと内容は著しく向上し、長足の進歩が窺えます。

マスコミの俳壇、歌壇に載る皆さんの作品をいつも拝見しています。その度に嬉しく思い皆様の精進努力に頭のさがる思い

で一杯です。(中略) さいわいにして皆さんは、よき先輩やリーダーに恵まれました。

俳句は、山城正弘氏、短歌は米須清正氏をサークルの長として毎月一回電電OBサロンに於いて学習されました。皆さんの学習の集成として歌集を発行されたことはこれまでの努力のあかしであります。このことが他のサークル活動にもいい刺激となるものと信じています。電友会としてもサークル活動を引き続き応援しサポートして参りたいと考えています。

これからも研鑽努力を積んで第三集、第四集と回を増やして歌集を発行されることを期待して止みません。

終りに、この歌集編集にご尽力くださった編集委員の方々のご苦労に対して衷心よりお礼を申し上げ、今後もサークル活動の推進にご活躍されることを願うとともに、俳句サークルと短歌サークルの益々のご発展を祈念いたします。

沖縄電電同友会会長

序文に続いて長景さんの俳句と短歌の一端を紹介いたします。

俳句十句 題名 梅一輪

- ◎園児らの帽子真つ赤や青き踏む
- ◎回廊の軒まで伸びて梅一輪
- ◎梅干を茶漬けに沈め朝餉かな
- ◎岩棚を蹴つて羽搏く栗立鳥
- ◎知らぬ間に猫の寄り添ふ昼寝かな
- ◎老いて日々片意地張らず含羞草
- ◎ジョギングの海岸通り風薫る
- ◎激戦地いま静かなり花ゆうな
- ◎病棟の灯ともる釣瓶落しかな
- ◎介護士に身を委ねをり日向ぼこ

実に見事な俳句ではありませんか。この様な立派な句ならば新聞投句すれば特選になる様な秀作であります。俳句に対する銜いも奢りも虚飾も偽善も無く実に自然体で自由闊達に身辺や社会、海山、動植物、自然現象をこれだけの十句に情緒豊かに捉えているのは、全く感心するばかりです。

短歌十首 題名 坂道

- ◎炎天のとび職人ら鉄塔の風に揺られてナット締めをり
- ◎健康を守るためにとウォーキング日課となりて暮るる道ゆく
- ◎菜園の手入れを終へてビール飲む小さき俵せ守りてゐたし
- ◎橋桁に器用に眠るホームレス誰も恨まずひたすら眠る
- ◎夕焼けの見ゆる港のビヤホール妻と向き合ひ枝豆つまむ
- ◎禅寺の庭の神木天を突く幾百年の時をききみて
- ◎江戸城の天守の跡の静かなり四葩は梅雨に色増しにけり
- ◎これからは残生として我生きむ花なら返り咲くことあらむに
- ◎冬日差す義士の墓前に香焚いて子らの土産に陣太鼓買ふ
- ◎足傷めギブスで歩む病棟に子らは廊下を無邪気に走る

短歌は短歌で、俳句の清冽な調べに対して叙情的な作法にて長景さん自身の生き様と家族愛と自然や世間との関りを豊かな感性で捉えて味わい深い歌を見事に詠まれております。

俳句の省略の技法も加えた短歌は分かり易く自らの健康保持や家族思いの心や人生哲学など胸に響くものがあります。

更に、ホームレスの生活をも詠み取る人間愛の心の広さに感服しました。

日常の余事些事に齟齬と生きている私は、人生のあり方を改善するヒントを掴みました。

私が反省すべき事は、歌集序文の後段にある「これから研鑽努力を積んで第三集、第四集と回を増して歌集を発行されることを期待して止みません」の言葉であります。それは今、第三集が発行されてないことです。

電友会報の文芸欄は今日、比嘉勝美さんと中野克子さんと私の投稿が続いており、後お一人が新加入しました。今の人数では歌集発行は無理で、暫く会員勧誘に努力致します。電友会の皆様、本当に本当にお願ひ申し上げます。本当に本当にお願ひと短歌会にご入会を重ねてお願ひお願ひ申し上げます。勉強会も実施したいと思ひます。

少し脱線した様に思いますが大先輩の宮城長景様、激励やご教示の数々を有り難うございました。ご冥福をお祈り申し上げます。「合掌」

《俳句サークルより》

*** 俳句・短歌始めませんか ***

- ・初心者大歓迎です!!
- ・プレバトのように楽しくやりましょう!!
- ※日時は柔軟に対応いたします。

連絡先：090-5293-1016 (宮城章)

又は (電友会事務局)：098-831-2086 (小波津)



短歌

宮城章

(平成五年三月退職)

海は母山は父なり四温晴れ
歌人碁敵疎遠なりけり

友の死を知らず電話の私事公事
米寿を前に計報の多し

級友のトーカチ祝ふ電話する
やつとつながる「十三秒呼」

スマホ腰に師走の街を散策し
空オケ歌ふ老いの世果報

元朝の矮鶏^{ちやば}鳴く首里の城下町
ニライカナイの水天彷彿

正月の漁船は今も国旗掲げ
泊漁港に未来ありけり



俳句

仲本栄章

(平成十四年四月退職)

糸満の港霞て小春かな

冬鷺は皆頭を垂れて我は王

あかあかと鏡の中の返り花

宮城章

(平成五年三月退職)

石路咲いて人を待ち氣や木曳門

識名園の亀の転た寢日向ぼこ

小春日や歩幅を伸ばすウォーキング

釣り人の影絵に見ゆる冬夕焼

首里杜の大王椰子や大旦

初日射す四海の波の静もれり

中野克子

(平成十三年三月退職)

今日眼科 明日は耳鼻科で 年暮るる

冬ばれや 医師の一言 「上等です」

初電話 ころばないでと 締めくく

屋良真利子

(昭和六十年六月退職)

晴天の雲の流れや冬の蝶

公園の屋台横丁冬うらら

島唄や色なき風の城址径



川柳

村吉政常

(平成十二年三月退職)

夢語る孫を見つめる老夫婦

裏金と言われへそくりそつと出す

猛暑でも財布の中は冷えています

選挙ピラ郵便受けで紙ずまり

本棚は昔の辞書がひとりじめ



「與那國島もう一つの郷土史」出版について

著者 野底武則

(平成十三年十二月退職)



など目からウロコの出る記載内容である。

なお、「郷土史第一号」の執筆時期は、前記図書「与那国の歴史」発行より四十年前も前の昭和十年代と想定される。

台紙は、黄ばみ、台紙の端は破れかけているが、記載内容は読み取れる。

○ 記載項目、記載内容

○ 表記文体（学ある人物？）

○ 戦争末期（昭和十年代）

東京もしくは関東在住

○ 与那国島の郷土史家を志していた

等から明治生れの与那国島出身者と推察されるが、作者名の記載がない。与那国島出身で歴史に詳しい関係者への聞き取り、与那国図書室での張り紙等で作者への手がかりを捜すが、作者に辿り着かないのである。

八十年前に書き留められた作者不明の「郷土史第一号」が何故に八十年、いや百年の時空を経て、私の元に届いたのか。

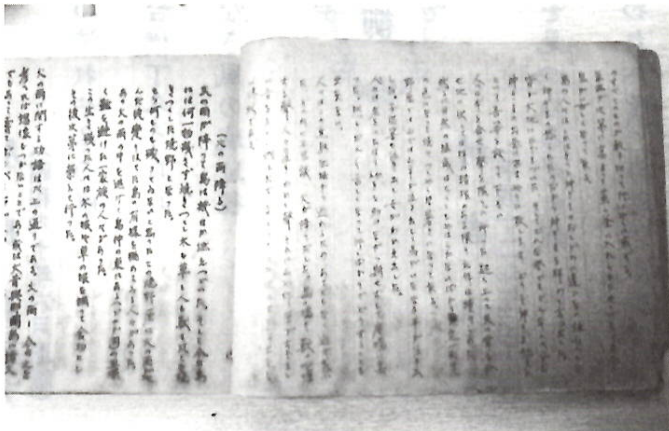
今から四年程前、私の長兄（藤沢在）が脳梗塞で倒れ、介護で見舞いに上京した弟が長兄の子らから預かって持ち帰り、私の元に辿り着いたのである。



「與那國島もう一つの郷土史」発行にあたっては、原書の旧漢字、旧仮名遣い、表記法等忠実に書き起こした。

作者不明の「郷土史第一号」のみでは、内容不足のため、私の著書「与那国島おもしろ小事典」から、与那国島の歴史、伝説や謂われ等考察した私の論著も転載することとした。

同書は、石垣市山田書店にて発売中。





沖縄電友会 ゴルフサークル

毎月第三木曜日 朝7時スタート
ホームコース:沖縄カントリー倶楽部(西原町)



2024年1月～12月の上位成績表

月	順位	氏名	グロス	HP	Net	月	順位	氏名	グロス	HP	Net
令和6年1月	優勝	喜瀬 真史	97	30	67	7月	優勝	友利 克	81	16.2	64.8
	二位	栗国 芳信	91	20	71		二位	金城 勇	76	5.1	70.9
	三位	友利 克	90	18	72		三位	望月 毅	107	36	71
2月	優勝	宮城 教一	83	15	68	8月	優勝	宮城 教一	74	5.1	68.9
	二位	新崎 貴也	84	14	70		二位	望月 毅	104	32.4	71.6
	三位	慶田 永孝	92	20	72		三位	上原 正光	92	20	72..0
3月	優勝	新崎 貴也	79	11.2	70	9月	優勝	荒天のため中止			
	二位	新垣 靖	86	18	68		二位				
	三位	金城 勇	79	9	70		三位				
4月	優勝	宮城 教一	78	10.5	67.5	10月	優勝	金城 勇	77	4	73
	二位	大橋 宗純	87	15	72		二位	仲本 榮章	101	27	74
	三位	慶田 永孝	91	18	73		三位	奥濱 英勝	98	23.4	74.6
5月	優勝	小波津 忠	96	29	67	11月	優勝	友利 克	86	11.3	74.7
	二位	金城 勇	78	8.1	69.9		二位	金城 勇	81	2.8	78.2
	三位	新垣 靖	86	14.4	71.6		三位	桃原 次男	106	27	79.0
6月	優勝	宮城 教一	80	7.2	72.7	12月	優勝	上原 正光	85	18	67
	二位	金城 勇	80	6.47	3.6		二位	奥濱 英勝	95	21	74
	三位	奥濱 英勝	102	26	76		三位	小波津 忠	97	20.3	76.7

新春囲碁大会のお知らせ

久々に新春囲碁大会を開催しますので、奮ってご参加下さい。

- ・とき 令和7年2月1日(土) 13:00～17:00
- ・ところ NTT那覇ビル3F OBサロン
- ・会費 1,000円
- ・その他 賞品・茶菓子準備しております。

※参加希望者は、事務局(☎831-2086:小波津)までお願いします。

ボウリング大会のお知らせ

(ストレス・運動不足解消)

今年も恒例のボウリング大会を開催いたしますので、
会員の皆様、奮ってご参加ください。

- ・とき 令和7年2月17日(月)13時～
- ・ところ サラダボウル(那覇市辻)
- ・参加費 2,000円(2ゲーム・賞品・飲物・貸靴代含み)
- ・募集数 30名(10レーン)



※参加希望者は、事務局(☎831-2086:小波津)までお願いします。

電友会サークル活動のご紹介

電友会沖縄地方本部

	実 施 日	場 所
カラオケ サークル	毎月 第二木曜日 午後2時～8時	ビッグエコー那覇新都心店
囲 碁 サークル	毎月 第四土曜日 (囲碁大会)	浦添囲碁会館
空 手 同 友 会	毎週 日曜日 午前9時～12時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
ゴルフ サークル	毎月 第三木曜日 午前6時30分～	沖縄カントリー倶楽部
民 舞 サークル	毎週 金曜日 午前10時～12時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
電友会 囲碁の庄	毎月 第四木曜日 午後2時～6時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
マルチメディア 同好会	毎月 第一月曜日 午後4時～6時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
俳 句 サークル	毎月 第三月曜日 午後1時30分～4時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
尺 八 サークル	毎週 火曜日 午後1時30分～3時30分	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
琉 舞 サークル	毎週 土曜日 午後2時～4時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
三 線 サークル	毎週 土曜日 午前9時～12時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
書 道 サークル	毎月 第一・三水曜日 午後2時～4時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
フォト サークル	毎月 第四火曜日 午後8時～9時	web (自宅)
コーラス サークル	毎月 第二水曜日 午後2時～4時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
詩 吟 サークル	毎月 第二・四金曜日 午後6時30分～8時	OBサロン (NTT 那覇ビル内)
中国語 サークル	毎月 第二・四土曜日 午前10時～11時30分	webex 会議システム
宮古グランドゴルフサークル	毎月 15 日 午後2時～	ビルマスパーク

いずれのサークルも初心者の入会を歓迎します。入会は、年度途中からでも、何時でも出来ますので、ご遠慮なくご連絡下さい。(実施日は変更している場合があります)

昔の仲間や先輩達と一緒に余暇を楽しみ、趣味を生かして豊かな人生を共にしたいものです。是非ご入会をお勧めします。又、こういうサークルを作りたいとか、作ってほしいとかの要望がありましたらぜひ事務局までご一報下さい。

☆連絡先 ☎ 098-831-2086 電友会事務局まで
FAX 098-833-0342

《詩吟サークルより》

***** 詩吟はじめませんか *****

・初心者
大歓迎です!!

- ・声を出すことは健康にも良いことです。
 - ・さあ、一緒に始めましょう。
- ※練習日時は柔軟に対応いたします。

連絡先：080-1717-3302 (村吉政常)

事務局からのお知らせ

1. 沖縄電友会ホームページが新しくなりました

沖縄電友会・会員の活動状況や訃報等をブログで掲載しております。

スマートフォン、パソコン・タブレット端末からご覧頂けます。

是非、アクセスして見てください（下記①または②）

① 沖縄電友会会場で Google 検索

② <https://blog.goo.ne.jp/okinawadenyukai>

2. 年会費の納入について

年会費の支払いをまだ済まされていない方は、8月に送付しています郵便局「払込取扱票」または下記銀行口座への振込を早急にお問い合わせをお願いします。電友会運営の貴重な財源です、皆様のご理解・ご協力方よろしくお願い致します。紛失等問い合わせは事務局までお願いします。

① 琉球銀行 寄宮支店 （普通） 1 0 2 5 3 1 7

② 沖縄銀行 二中前支店 （普通） 1 4 5 4 4 4 8

③ 沖縄県労金 本店 （普通） 3 5 1 7 0 5 7

いずれも口座名義は、沖縄電友会 会長 仲本榮章

○会報の原稿募集について、随筆、随想、日記、旅行記、近況報告、短歌、俳句、川柳、琉歌、その他ご意見、情報等をお寄せ下さいますようお願い致します。

近況・雑感

（ハガキ短信 120 字以内）

がんじゅう広場

健康・趣味（400 字 2 枚程度）について日常から会得、実践していることにタイトル・氏名を付記する。

文芸コーナー随想

（400 字×4 枚程度）自分の思いや感想などにタイトル・氏名を付記する。

○会員・配偶者の訃報は、事務局へご連絡下さい。弔意を差し上げることになっております。

○ボランティア活動されている方（個人又は団体）は、その活動状況を電話等でお知らせください。

表紙の説明

「沖縄電友会報」

令和7年新年号

國吉克哉

電友会の仲間が新たな挑戦へ向けて飛び出すのをイメージして、大空へ飛び立つ瞬間の大型旅客機を新年号の表紙に選びました。

友人の三線の達人はこれを見て、八重山古典民謡「鷺の鳥節」を連想したと語りました。この曲はめでたい席の幕開けの定番で、巣立ったカンムリ鷺が正月の朝に東の空へ向かって羽ばたいていく様子を歌ったものだそうです。

表紙一杯に翼を広げて、轟音を響かせ離陸する様は「鷺の鳥節」そのもので、明日への活力にみなぎる電友会や会員の姿に重なります。後方には次に飛び立つ仲間が待ち、地上には離陸を支援する様々な設備が備わっています。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新年早々能登半島地震が発生し自然災害の脅威を改めて感じました。また、集中豪雨による水害も全国各地で発生し大きな被害が出ました。沖縄においても、本島北部に線状降水帯が発生、比地川が氾濫し床上・床下浸水で住民が避難生活を強いられるなど想定されない事象が起きました。今年は、会員皆様が安全で健康な一年を過ごせますよう願っております。

★ 昭和四十九年五月に沖縄電電同友会が発足し、今年は五十一年を迎えます。昨年は五十周年記念事業として、各種イベントを開催しました。特に、「能登半島地震復興支援チャリティゴルフ大会」は、会員は勿論、NTTグループ・関連企業等を含め多数の皆様の支援により義援金三十万円を日本赤十字社を通じて被災地に届けることができました。この模様は沖縄タイムスに掲載され沖縄電友会の社会貢献活動が一層認知されたことと思います。

★ 電友会本部の第三十四回ボランティア活動賞は、ライフル射撃競技の普及・育成と自治

会活動の活性化に取り組んだとして照屋峰一さんが表彰されました。また、NTT西日本沖縄支店主催の退職者交流会において、古江支店長から電気通信功労者として村吉政常さん、伊藤彰さん、富川昇さん、地域ボランティア功労者として松田竹徳さんが感謝状・記念品を授与されました。四名の会員の皆様誠におめでとうございます。

★ 今年は巳年で、トウシビーにあたる昭和二十八年生の会員の皆様からご寄稿頂きました。巳年という脱皮をする蛇のイメージから「復活と再生」、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われているようです。今年も皆様にとって良い年でありますよう祈念致します。

★ 沖縄電友会は、皆様が健康で充実したシニアライフを過ごして頂きますようお手伝いできればと思っています。是非、各種サークルへ参加し、楽しみ、生き甲斐を感じてみてはいかがでしょうかですか、どうか一歩踏み出してください。各サークルとも皆様を歓迎致します。

昨年の七月、ベテランの崎浜秀恒さんの後任として事務局を任せました、今年も皆様のご協力ご支援を賜り頑張っていきたいと思います。で、宜しくお願い致します。

(事務局…小波津忠)

編 集 発 行	電友会沖縄地方本部事務局(沖縄電電同友会)
〒902-0064	那覇市寄宮1-3-37
	NTT那覇ビル内
電 話	(098)831-2086
F A X	(098)833-0342
印 刷 所	合同印刷
〒903-0807	那覇市首里久場川町1-117-5
電 話	(098)887-1066